

6-6 沖縄地方とその周辺の地震活動（1988年8月～10月）

Seismic Activity in and around the Okinawa District (August-October, 1988)

沖縄気象台

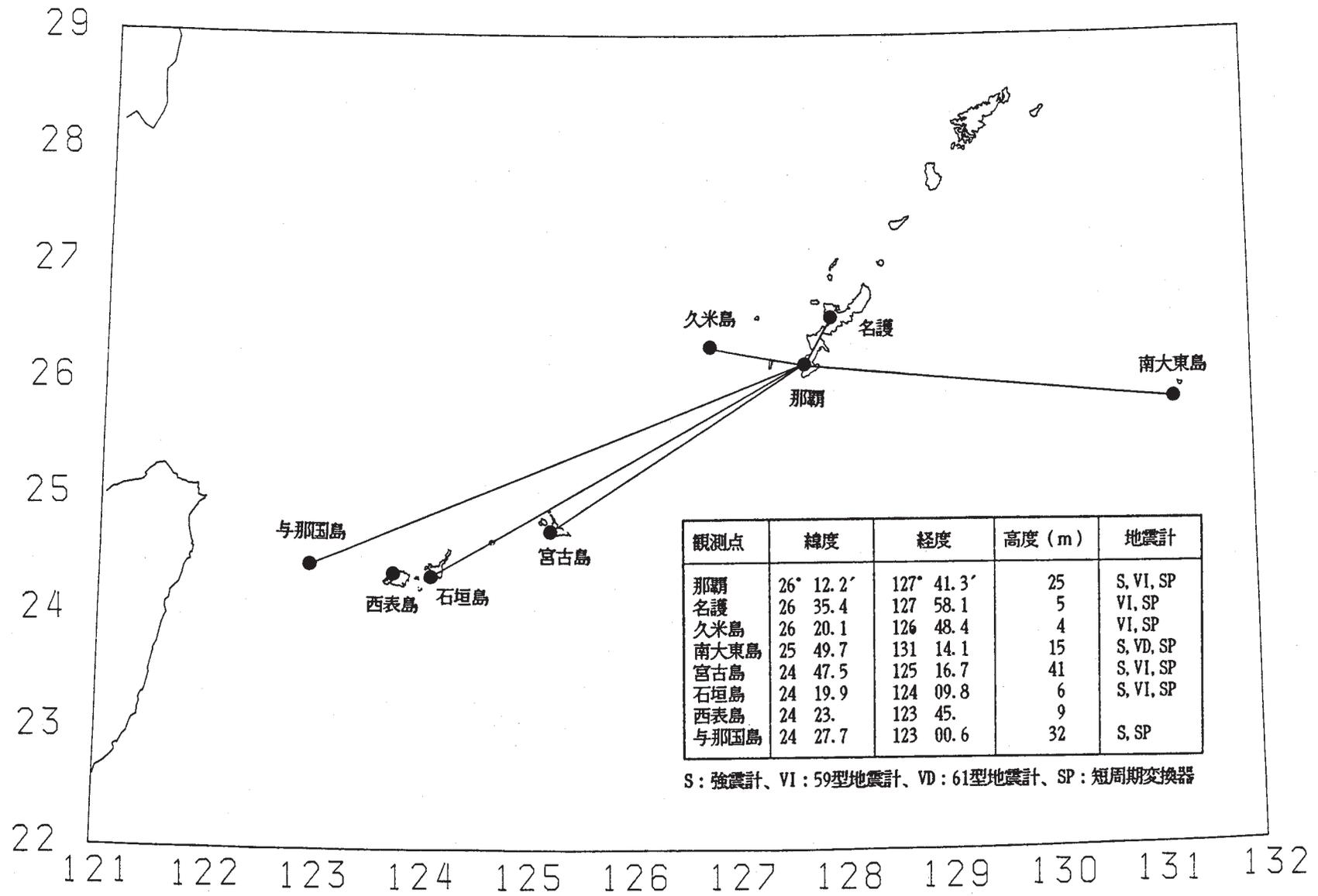
Okinawa Meteorological Observatory, JMA

1987年3月、沖縄管内の地震資料伝送システムが整備され、管内各官署の地震波形データ是那覇へテレメーターされるようになった（第1図）。当システムの整備にともない各観測点の検知力が強化され、沖縄管内の震源決定能力は著しく向上した。システム設置後に観測される地震数は月平均約110個、そのうち約30個の震源が得られている。台湾東岸沿いの活発な地震活動を反映して、与那国島で観測される地震数が最も多い。しかし、宮古島以西には観測点が少ないため、沖縄本島周辺に較べて震源決定率が低い。西表島では震度観測のみを行っている。

1988年8月～10月までの震央分布を第2図に示す。用いた震源データは沖縄L-ADESSによるものであり、図中に月日を付した地震は有感地震である。また、与那国島における地震回数を第3図に示す。地震回数はドラム記録から地震と確認された記録をすべてカウントしたものである。

8月下旬から9月にかけて与那国島周辺の地震が多かった。与那国島の地震回数は8月28日：21回、29日：14回であった。8月29日00時34分に起った地震の震央は与那国島の南西約75kmと推定されており、その周辺の地震活動と考えられる。

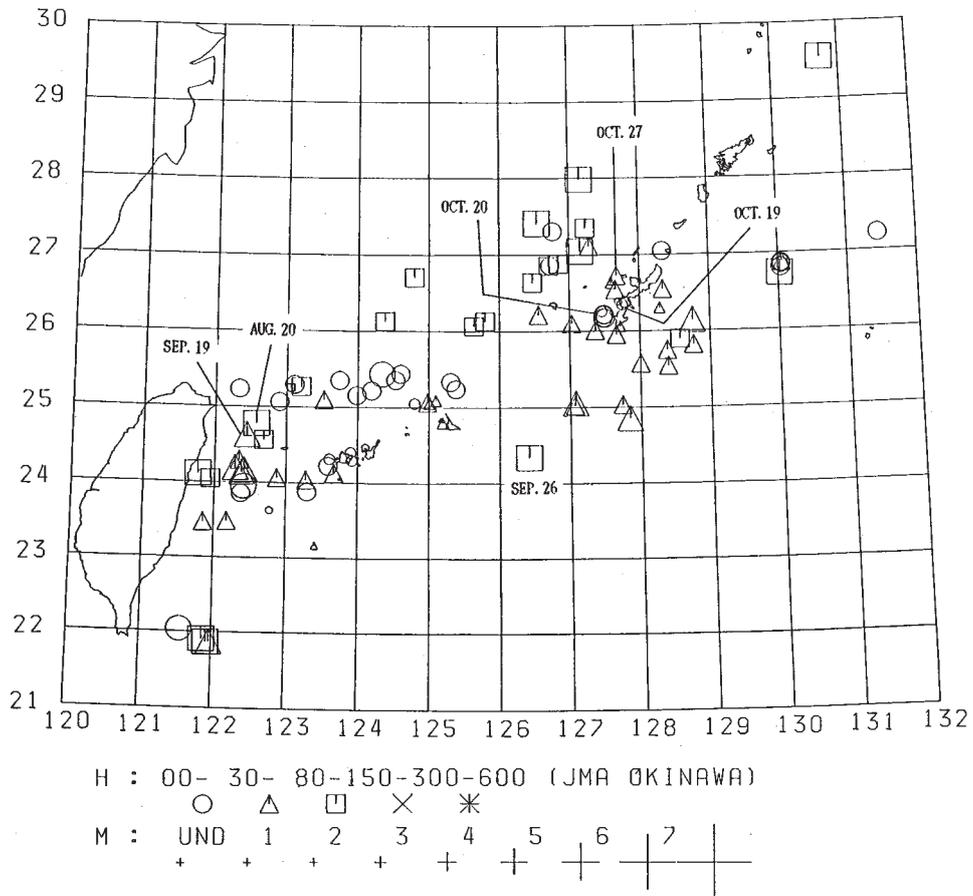
10月は沖縄本島周辺の地震活動が目立ち、那覇で3回の有感地震を観測した。那覇で震度Iを観測した10月20日09時16分の地震の震央是那覇の西方約20kmと推定されている。その位置は、今年の2月18日震度Ⅲ（14時04分、M:4.6）を最大に、1日で有感地震4回（那覇）を観測した地震の震央と同じである。2月18日以後、同地域に震源がもたらされた地震は20個を越えている。



第1図 地震観測網

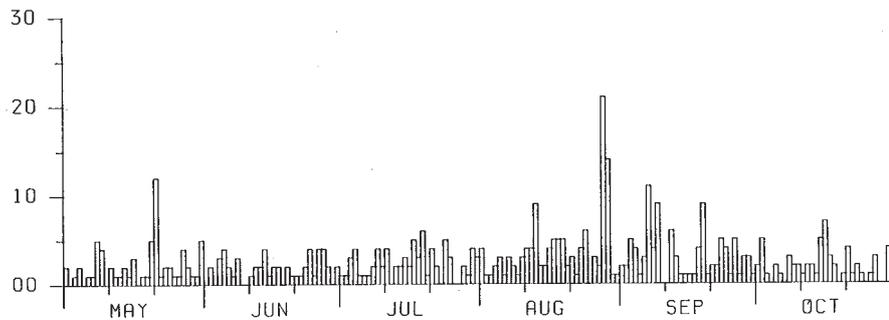
Fig. 1 Seismometrical Network in Okinawa District.

1988 8 1 --- 1988 10 31



第2図 震央分布 (1988年, 8月~10月)

Fig. 2 Epicenter Distribution (August - October, 1988).



第3図 与那国島における日別地震回数 (1988)

Fig. 3 Daily number of earthquakes observed at Yonagunijima Island.